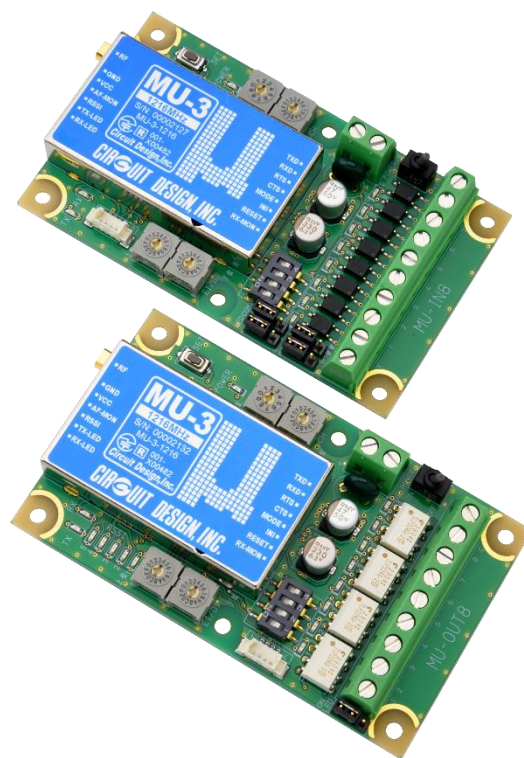


1216MHz 帯

8 接点入力ボード: MU3-IN8-1216

8 接点出力ボード: MU3-OUT8-1216



マニュアル

Ver. 1.0 2024.2

この度は、サーキットデザイン製品をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

**指示**

- 安全にご使用いただくため、本マニュアルをよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。
- ご使用前に、「安全上のご注意」(次ページ)に記載する事項を必ずお読みください。
- 本マニュアルは大切に保管してください。

**通知**

◇本機の機能及び仕様は、改良のため変更される場合があります。

👉 重要事項

- ・本製品は、電波衝突や故障により通信が途絶えデータが出力されない場合や、予期しないデータが出力される可能性があります。このような場合でも事故が起こらないように適切なデータ処理を行って下さい。
- ・本製品は、医療機器、原子力施設機器、航空機器、交通関連機器など、ひとたび事故が起こると生命、財産に関わる重大な損害を与えるおそれのあるシステムには使用しないで下さい。
- ・本製品を組み込んだお客様の製品に起因して発生したいかなる損害に対しても、弊社では一切の責任を負いません。
- ・本製品の仕様、デザインなどは改良のため予告なしに変更する事があります。
- ・本マニュアルでは、MU-3 8 接点入力ボードとMU-3 8 接点出力ボードを総称して'8 接点ボード'と記述とする事があります。

安全にお使いいただくために

このたびは、MU-3 8 接点ボードをご購入いただきありがとうございます。
本製品の誤った取り扱いによる事故を未然に防ぐために、マニュアル中に示す「警告マーク」および「注意マーク」の意味を十分理解していただき必ずお守り下さい。

警告マーク及び注意マーク表示について



この表示の警告事項を無視して本製品の取り扱いをすると、本製品が誤動作し、人命、身体に関わる死傷事故、財産に対する損害事故が生ずる可能性があります。
また、法律違反になる場合があります。
弊社では、この事に起因するいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。



この表示の注意事項を無視して本製品の誤った取り扱いをすると、本製品が破損したり通信不能や誤動作する場合があります。
弊社では、この事に起因するいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

目次

第1章 MU-3 8 接点ボードについて	6
1.1 概要	6
1.1.1 特徴	6
1.1.2 用途	6
1.2 品名・品番と種類	7
1.2.1 品名・品番	7
1.2.2 専用アンテナ	7
1.3 各部の名称と機能	8
1.3.1 8 接点入力ボード	8
1.3.2 8 接点出力ボード	10
1.4 ブロック図	12
1.4.1 MU3-IN8-1216	12
1.4.2 MU3-OUT8-1216	13
1.5 接続方法	14
1.5.1 8 接点入力ボード	14
1.5.2 8 接点出力ボード	16
第2章 仕様及び図面	17
2.1 主な仕様	17
2.1.1 8 接点入力ボード仕様	17
2.1.2 8 接点出力ボード仕様	18
2.2 チャンネルとチャンネルグループ	19
2.2.1 8 接点ボード 1216MHz 帯	19
2.3 外形寸法図	20
2.3.1 8 接点入力ボード MU3-IN8-1216	20
2.3.2 8 接点出力ボード MU3-OUT8-1216	20
第3章 使い方	21
3.1 入力ボードと出力ボード間通信	21
3.2 初期設定	22
3.2.1 8 接点ボード上 MU-3 の初期化	22
3.2.2 通信 ID について	22
3.2.3 入力ボードと出力ボード間通信時の初期化	23
3.2.4 8 接点ボードと PC 間通信時の初期化	23
3.3 動作モード	24
3.3.1 使用周波数選択方法	24
3.3.2 入力ボードと出力ボード間通信	24
3.3.3 PC と入力ボード間通信	25
3.3.4 PC と出力ボード間通信	25
3.4 ボード周辺の電波状況の取得	25
第4章 PC・CPU からコントロール	26
4.1 システム図	26
4.2 通信フォーマット	27
4.2.1 概要	27
4.2.2 8 接点ボードに対する PC 側ボードの設定	27
4.2.3 8 接点ボードへの PC 側送信フォーマット	27
4.2.4 ボーリング通信時フォーマット	27
4.2.5 8 接点ボードの通信 ID 設定フォーマット	28
4.2.6 8 接点入力ボードの送信フォーマット(8 接点出力ボードとの通信時)	28
4.3 中継局を使用した 8 接点ボードの制御	28

警告と注意



- ◆ 本製品は、人命や身体、財産に関わる重大事故の発生するおそれのある設備や機器としての使用や、それらに組み込んで使用しないで下さい。また、それら施設の周辺で使用しないで下さい。
 - ☒ 電波による誤動作を引き起こす可能性がある医療機器の近くでは使用しないで下さい。
 - ☒ 航空機、原子炉施設などの重要施設等での使用はしないで下さい。
 - ☒ 本製品を使用したシステムを設計する場合は誤動作防止、火災発生対策など安全設計をして下さい。
 - ☒ 軍事目的(武器、テロ行為)や、軍事関連施設では使用しないで下さい。
- ◆ 本製品を分解、改造をしないで下さい。電波法で禁止されています。
- ◆ 海外では使用しないで下さい。

本製品は、日本国内仕様となっています。本製品を日本国外で使用するとその国の電波に関する法律に違反する可能性があります。
- ◆ 本製品を使用するシステム、機器の安全対策を十分に行ってください。

本製品は電波を使用しており、電波の到達距離範囲内であってもマルチパスフェージングや外来ノイズの影響で通信が途切れる場合があります。その場合でもシステムが常に安全を保つように考慮して下さい。
- ◆ 以下のような環境あるいは、本製品仕様の範囲を越えた場所や状況では使用しないで下さい。
 - ☒ 振動や衝撃が加わる場所
 - ☒ 高温、低温になる場所や温度差が急激に変化する場所
 - 閉め切った車内、ストーブ、ヒータ、冷凍庫、本体の放熱を妨げる場所など
 - ☒ 湿度や水気が多い場所
 - 浴室内、台所の流しや湯気の当たる場所、雨や雪のかかる屋外
 - ☒ 直射日光が当たる場所
 - ☒ 強い電波や磁力、静電気が発生する場所
 - 無線機、無線局、磁石、スピーカなど
 - ☒ 腐食性ガスの発生、化学物質の付着するおそれのある場所
 - ☒ 製品の定格や仕様の範囲を超えた使い方はしないで下さい。
- ◆ 以下のような取り扱いは絶対にしないで下さい。
 - ☒ 本製品を落としたり、衝撃を加えないで下さい。
 - ☒ 本製品の上には、重い物、液体などを置かないで下さい。
 - ☒ アンテナは曲げたり、折ったりしないで下さい。
 - ☒ 本製品内に金属などの異物が入らないようにして下さい。
- ◆ 電源供給線の誤配線が無いようにして下さい。
- ◆ 手や体が電源部に接触すると感電する事があります。絶対にしないで下さい。
- ◆ 煙が出たり異臭がした場合は直ちに電源供給を停止し使用を中止して下さい。



- ◆ 本製品は周囲に金属物の無い場所に設置して下さい。通信性能が劣化します。
- ◆ 本製品を長期間使用しない場合は、購入時の箱に入れて保管して下さい。
- ◆ 本書の内容のコピー、転載は無断で行わないで下さい。著作権法により禁止されています。

電波法に関する警告事項



本製品に搭載している MU-3 は、電波法に基づく特定小電力機器のシリアルデータ伝送無線モデムとして技術基準適合証明を受けていますが、必ず次の事を守ってお使い下さい。

- ◆ 分解、改造をしないで下さい。法律で禁止されています。
- ◆ 技術基準適合ラベルは剥がさないようにして下さい。ラベルのないものは使用が禁止されています。
- ◆ この製品は混信防止機能として識別符号自動送受信機能を搭載しており、他のシステムに影響を与えません。
- ◆ 本製品は外国の電波法には適合していません。日本国内でのみ使用可能です。
- ◆ This product is for the use only in japan.

製品保証について

本製品の保証期間は、ご購入の日から 1 年間です。保証期間を過ぎた場合は有償修理となります。ただし、「警告と注意」の項に掲げた環境や使用状況での故障は有償修理となります。

製品修理について

本製品の正しいご使用方法にも関わらず発生した故障に対し、製品の保証期間中(ご購入後 1 年間)は無償で修理いたします。保証期間を過ぎている場合は有償修理となります。

修理に出す前には、もう一度故障状況をご確認いただき、弊社営業部までご連絡をお願いします。修理品は宅配便などで弊社営業部までご送付下さい。

修理内容の明記

修理をご依頼される際は、故障の内容や状況をできるだけ具体的に明記し、修理品と一緒に送って下さい。

修理料金について

修理料金は、現品を確認させていただいたうえで別途見積りいたします。

送料について

ご返却いただく際の送料はお客様の負担をお願いします。

出張修理

出張修理は行いません。

故障状況の確認

故障内容に関し、弊社ホームページの製品別 FAQ に同様な事例がないか確認して下さい。

製品の製造中止について

諸々の理由によりやむを得ず本製品の製造を中止することがあります。製造中止の案内は弊社ホームページに掲載いたします。なお、本製品の補修用性能部品は製造中止後 5 年間保有しています。製品保証期間を過ぎたものは有償修理となります。弊社営業部にお問い合わせ下さい。

※補修用性能部品:本製品の機能を維持するために必要な交換部品あるいは交換基板のことで。

ご連絡、お問い合わせ先

各種問い合わせは、弊社営業部まで下記のいずれかの方法でご連絡下さい。
また、弊社 web には技術情報ならびに新しい情報、Q&A などが掲載されていますのでご覧下さい。

👉 ポイント: Eメールによるお問い合わせが、簡潔で間違いが無く、内容が伝えやすいのでとても便利です。

👉 ポイント: 技術的なお問合せに関しては、開発環境や問題となっている事柄などを具体的にとりまとめてからご連絡下さい。

■ 電子メール

技術的な質問: technical@circuitdesign.jp
販売、一般的な質問: sales@circuitdesign.jp
宛先: 営業部

■ 電話

電話番号: 0263-82-1024
担当部署: 営業部
受け付け時間: 9:00 ~ 17:30 (平日)

■ FAX

FAX番号: 0263-82-1016
宛先: (株)サーキットデザイン 営業部

■ 郵便

郵便番号: 399-8303
住所: 長野県安曇野市穂高 7557-1
宛名: (株)サーキットデザイン 営業部

ホームページ

弊社 web には製品に関する技術情報ならびに新着情報、Q&A などが掲載されていますのでご覧下さい。
また、関連ファイルをダウンロードする事ができます。

web URL: <http://www.circuitdesign.jp/>

第1章 MU-3 8 接点ボードについて

1.1 概要

MU-3^{※1} 8 接点ボードは、特定小電力シリアルデータ伝送無線モデム MU-3 を搭載し、8 ビットの接点情報を無線伝送する機器組み込み型ボードです。

MU-3 8 接点ボードには 8 接点入力ボードと 8 接点出力ボードがあり、ボード間の通信は勿論のこと PC に接続した MU-3/MU-1N とも通信ができるので、幅広い分野に渡る応用システムの構築が可能です。

構築するシステムの使用環境に合わせて、429MHz 帯、1216MHz 帯^{※2}の中からボードを選ぶことができます。使用する周波数チャンネルは、ボードが自動的にサーチし無線リンクするので簡単に運用できます。PC 等から中継局を介しての通信も可能です。

入力ボードにはフォトカプラ、出力ボードにはフォト MOS リレーを採用し、優れたアイソレーション特性を実現しています。また、入力部、出力部及び電源部には端子台を採用し簡単に組み込み配線ができます。

■ 1.1.1 特徴

- ◆無線局の免許・資格が不要です。
- ◆環境に応じて 429MHz 帯、1216MHz 帯^{※2}からボードを選択することができます。
- ◆接点情報を扱うテレコントロールシステムを容易に構築することができます。
- ◆ボード間通信ではサイクリックにデータを送信しているのでレスポンス特性が優れています。
- ◆入力ボードにはフォトカプラ、出力ボードにはフォト MOS リレーを採用しています。
- ◆電源及び入力用、出力用の端子台を装備しているので簡単に組み込み配線が可能です。
- ◆自動周波数チャンネル選択機能で他者電波による混信問題から解放されます。
- ◆ボード上で全ての通信設定ができ、購入後直ぐに通信が可能です。
- ◆無線部には無線伝送性能が優れた MU-3 を採用しています。
- ◆機器組み込み用として小型サイズ、軽量を実現しています。
- ◆低電圧、低消費電力で電池動作も可能です。
- ◆PC に接続した MU-3 からボードをコントロールすることで 1:N 通信が可能です。
- ◆遠隔地にある 8 接点ボードの電波状況を PC から把握することができます。
- ◆PC・CPU による制御では、中継局を介して機器の制御や接点信号の収集が可能です。

※1 MU-3 は技術基準適合証明を取得した特定小電力シリアルデータ伝送無線モデム装置です。

※2 本マニュアルは、無線モデム MU-3-1216 を搭載した 8 接点ボード用です。

MU-3-429 搭載の 8 接点ボードについては別マニュアルをご覧ください。

■ 1.1.2 用途

- ◆8 接点信号伝送装置
- ◆工所用、工場用信号機、各種警報装置、回転灯、サイレン、電動シャッター等
- ◆接点警報信号の収集



・電波が途切れた場合、必ず安全な方向に動作するように設計して下さい。

設計の最初に、システム動作を十分検討して下さい。

・機器エラーの発生する度合いは使用環境のノイズ、フェージング等により大きく変化します。運用に先立ち実際に使用する環境で十分テストを行なって下さい。また、十分電界強度のある場所に設置して下さい。

・電源投入後通常動作になるまで 120ms 掛かるので、頻繁な ON/OFF は避けて下さい。

1.2 品名、品番と種類

■1.2.1 品名、品番

MU-3 8 接点ボードには、MU-3 8 接点入力ボードと MU-3 8 接点出力ボードがあります。



品名 1:1216MHz 帯 MU-3 8 接点入力ボード
品番:MU3-IN8-1216



品名 2:1216MHz 帯 MU-3 8 接点出力ボード
品番:MU3-OUT8-1216

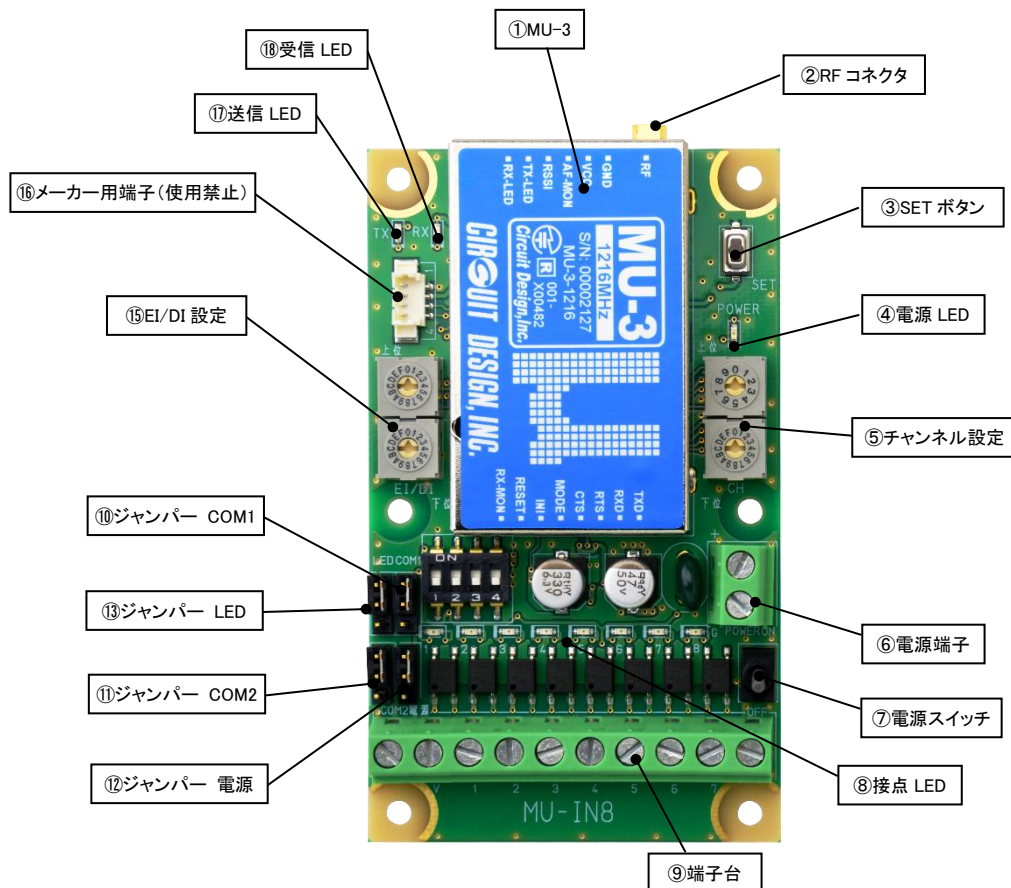
■1.2.2 専用アンテナ

MU-3 8 接点ボードは、電波環境の良い場所にアンテナを分離して設置することができます。ただし、アンテナは弊社が指定する指定専用アンテナをご使用ください。指定専用アンテナ以外を使用すると、電波法違反となります。ご使用いただける指定専用アンテナは、弊社ホームページの「指定専用アンテナリスト」をご覧ください。

※指定専用アンテナ以外は電波法違反となりますのでご注意ください。

1.3 各部の名称と機能

■ 1.3.1 8 接点入力ボード



① MU-3

高周波性能に優れた MU-3 を搭載しています。周波数帯域は 1216MHz 帯です。

② RF コネクタ

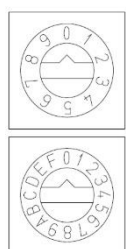
指定専用アンテナあるいは同軸ケーブルを接続する端子です。
指定専用アンテナ以外を用いると電波法違反となります

③ SET ボタン

通信に先立ちボードの初期化を行なうためのスイッチです。

④ 電源 LED

電源が入ると点灯します。また、初期化設定時の表示も兼ねています。

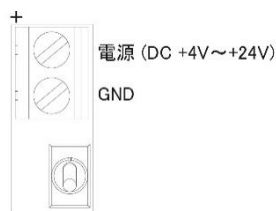


チャンネル上位

チャンネル下位

⑤ チャンネル設定

使用チャンネルを設定します。設定値は 16 進数値で設定します。



⑥電源端子

ボード用の電源端子です。+4V~+24V までの直流電源(DC)を供給して下さい。極性には十分注意して下さい。

⑦電源スイッチ

ボードの電源スイッチです。初期化設定時にも SET ボタンと共に使用します。

⑧接点 LED

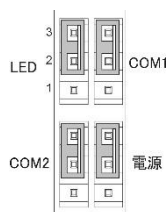
入力データの状況を示す LED です。入力が GND レベルの時に点灯します。低消費電力化のためにジャンパーCN2 で消灯することができます。



⑨端子台

外部にスイッチボタン等の接点を接続して下さい。コモン端子(GND レベル)との間に接続して下さい。完全なアイソレーションを実現するために、外部制御電源とすることもできます。

注意！：外部制御電源とする場合は、必ず DC+3V~+12V の電圧範囲として下さい。



⑩ジャンパー COM1

⑪ジャンパー COM2

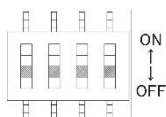
⑫ジャンパー 電源

フォトカプラ用の電源設定用ジャンパーです。1.5 接続方法を参照ください。

⑬ジャンパー LED

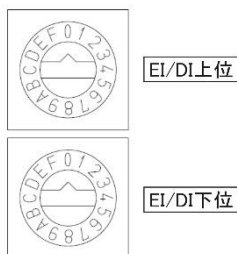
接点 LED 回路の動作を決定します。

2-3 番ピンショート: LED 点灯。2-1 番ピンショート: LED 消灯



⑭モードスイッチ

ボードの各種動作モードを設定します。



⑮EI/DI 設定

ボードに搭載している MU-3 の機器 ID と目的局 ID を設定します。

⑯メーカー端子(使用禁止)

メーカーで使用する端子です。絶対に使用しないで下さい。

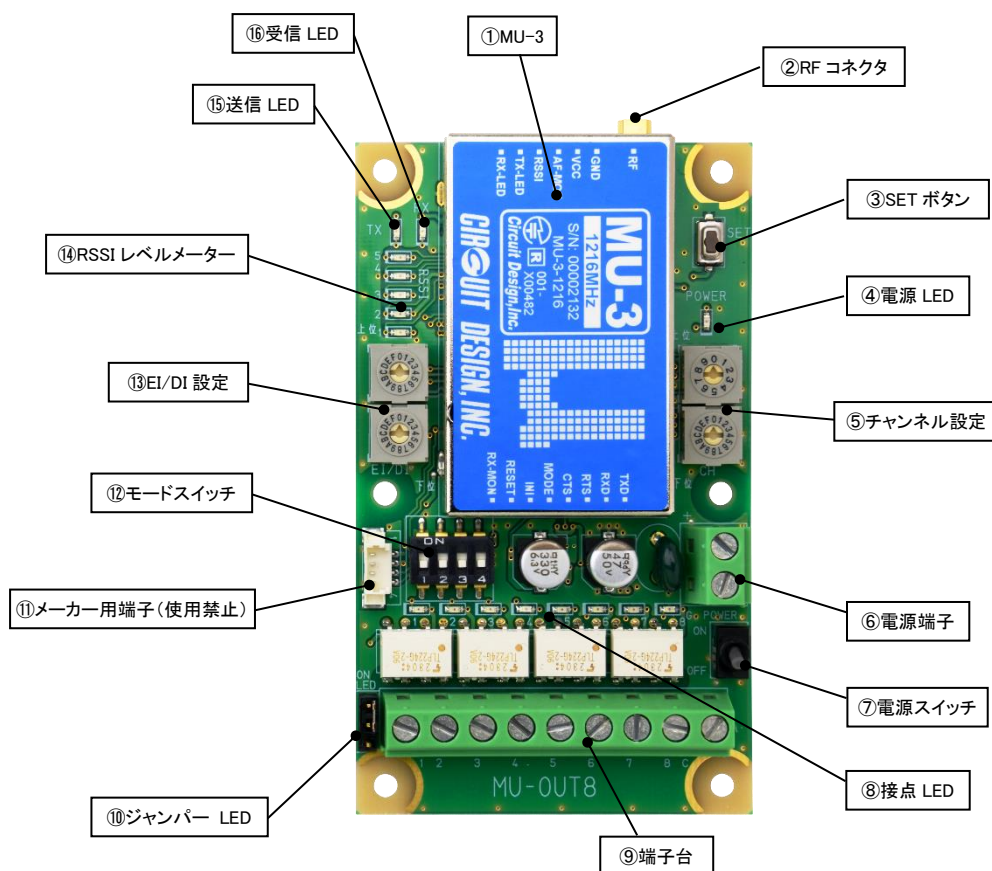
⑰送信 LED

MU-3 に直結している送信 LED です。データが電波で発射される時に点灯します。

⑱受信 LED

MU-3 に直結している受信 LED です。電波でデータが到達した時に点灯します。

■ 1.3.2 8 接点出力ボード



① MU-3

高周波性能に優れた MU-3 を搭載しています。周波数は 1216MHz 帯です。

② RF コネクタ

指定専用アンテナあるいは同軸ケーブルを接続する端子です。
指定専用アンテナ以外を用いると電波法違反となります。

③ SET ボタン

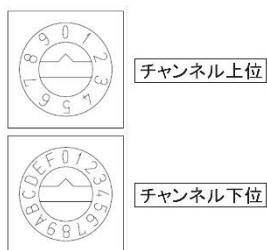
通信に先立ちボードの初期化を行なうためのスイッチです。

④ 電源 LED

電源が入ると点灯します。また、初期化設定時の表示も兼ねています。

⑤ チャンネル設定

使用チャンネルを設定します。設定値は 16 進数値で設定します。



⑥ 電源端子

ボード用の電源端子です。+4V~+24V までの直流電源(DC)を供給して下さい。極性には十分注意して下さい。

⑦ 電源スイッチ

ボードの電源スイッチです。初期化設定時にも SET ボタンと共に使用します。

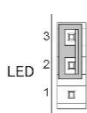
⑧接点 LED

出力データの状況を示す LED です。送信機から受け取った出力データの状況に応じて点灯します。低消費電力化のためにジャンパーCN2 で消灯することができます。



⑨端子台

外部に出力用の部品を接続して下さい。高電圧、高電流を必要とする機器を接続する時は必ずドライバ部品を挿入して下さい。



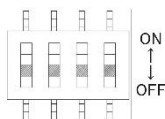
⑩ジャンパー LED

接点 LED 回路の動作を決定します。

2-3 番ピンショート: LED 点灯。2-1 番ピンショート: LED 消灯。

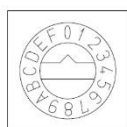
⑪メーカー端子(使用禁止)

メーカーで使用する端子です。絶対に使用しないで下さい。



⑫モードスイッチ

ボードの各種動作モードを設定します。



EI/DI上位



EI/DI下位

⑬EI/DI 設定

ボードに搭載している MU-3 の機器 ID と目的局 ID を設定します。

⑭RSSI レベルメータ

受信したパケットの受信絶対レベルを 5 段階に表示します。-70dBm、-80dBm、-90dBm、-100dBm、-110dBm

⑮送信 LED

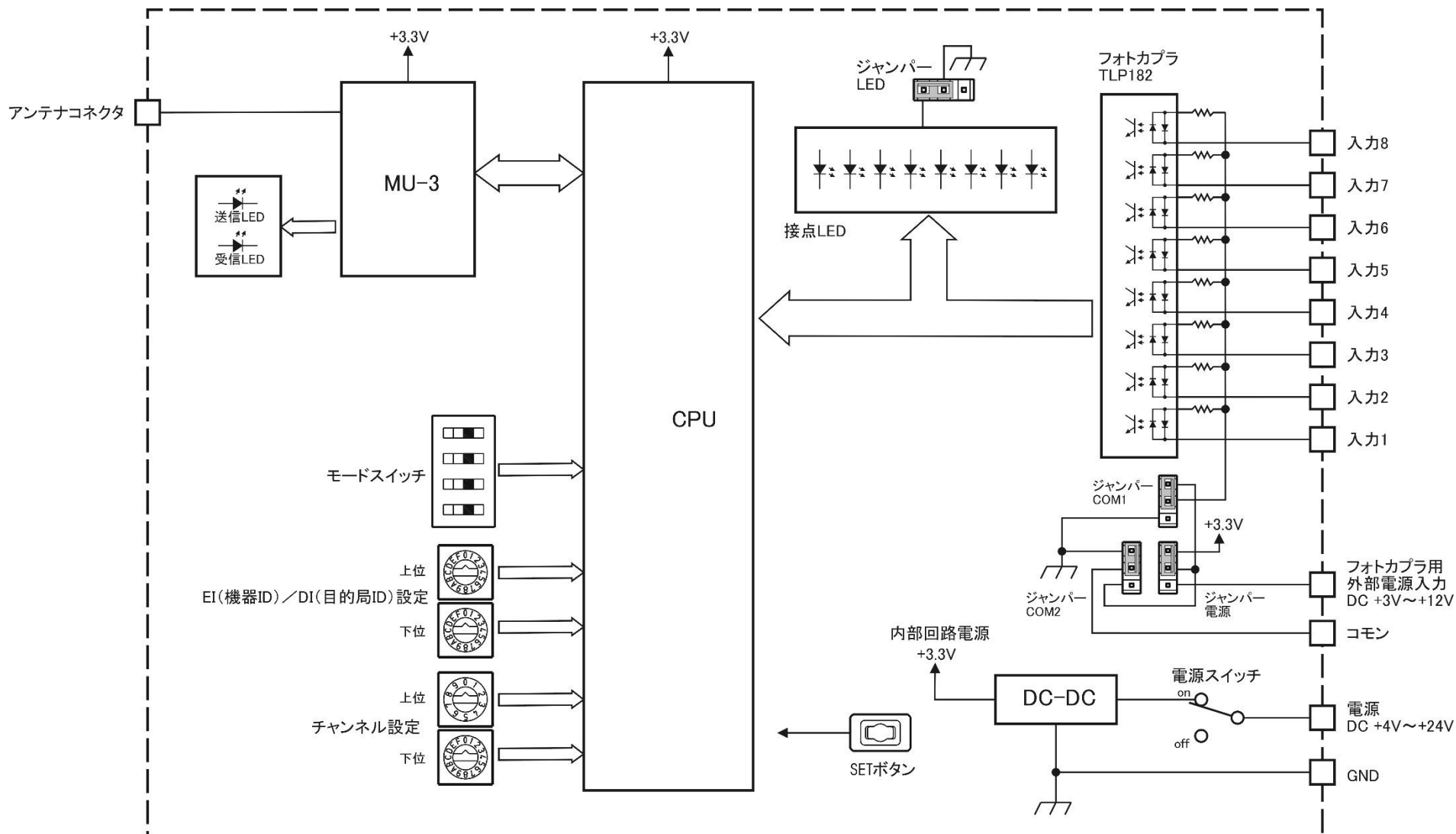
MU-3 に直結している送信 LED です。データが電波で発射される時に点灯します。

⑯受信 LED

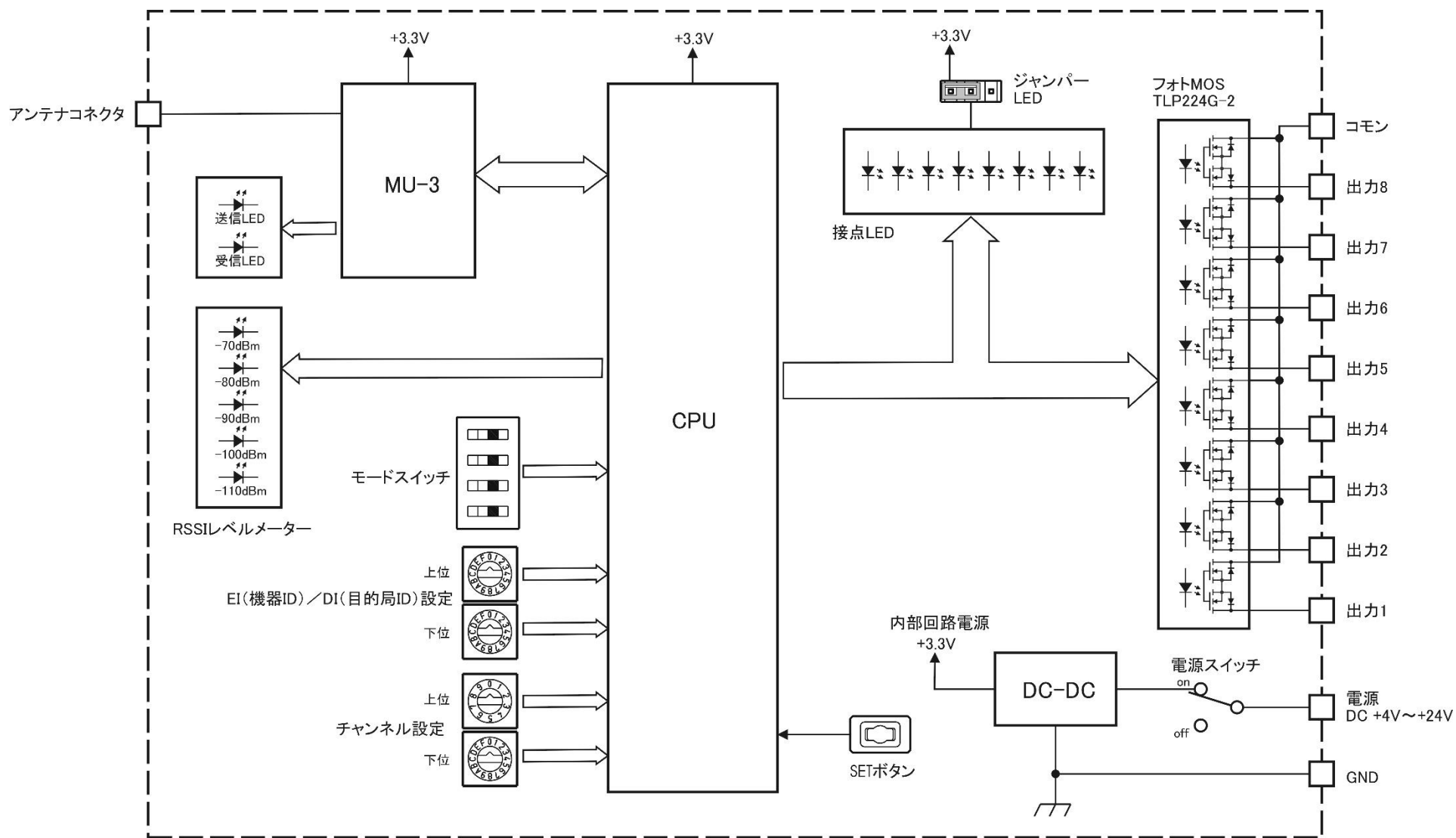
MU-3 に直結している受信 LED です。電波でデータが到達した時に点灯します。

1.4 ブロック図

■ 1.4.1 MU3-IN8-1216



■ 1.4.2 MU3-OUT8-1216

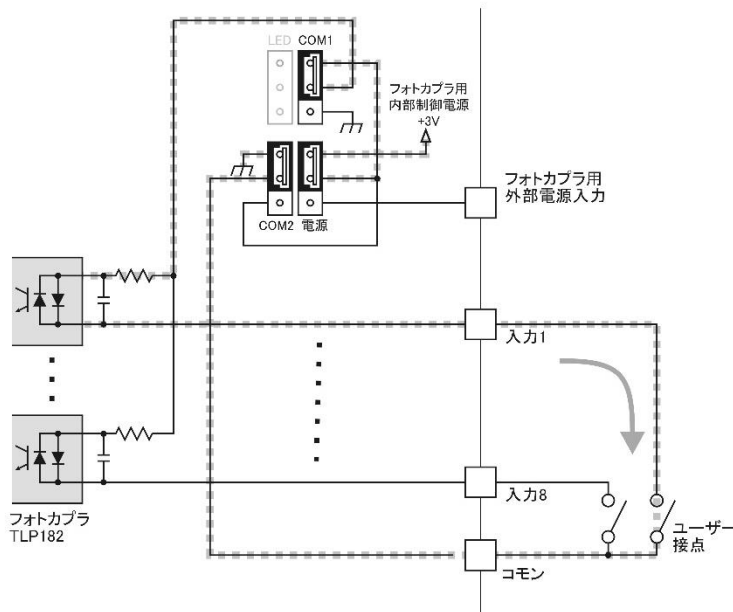


1.5 接続方法

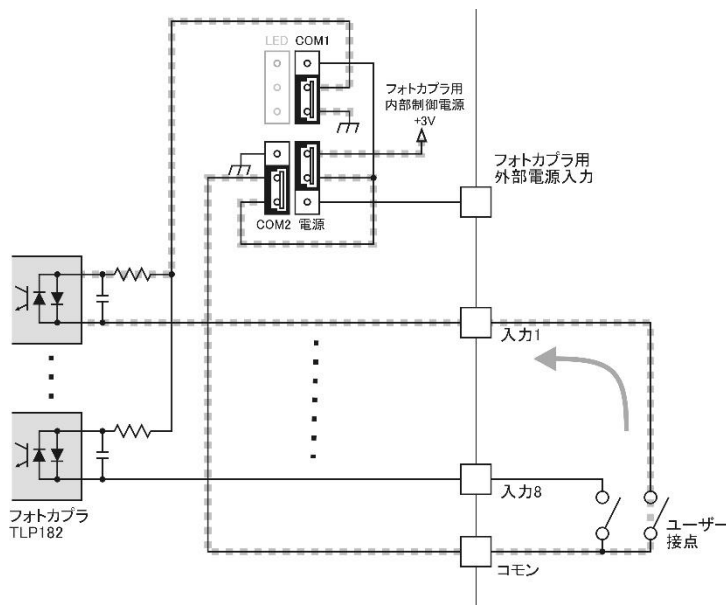
■1.5.1 8 接点入力ボード

8 接点入力ボードは東芝製フォトカプラ TLP182 を使用しています。通常は本ボードの内部電源で制御しますが、ユーザハードウェアと電氣的アイソレーションを確保するために外部制御電源も可能です。TLP182 は双方向フォトカプラのため、どちらの極性の入力もできます。

◆内部制御電源、GND コモンとする場合



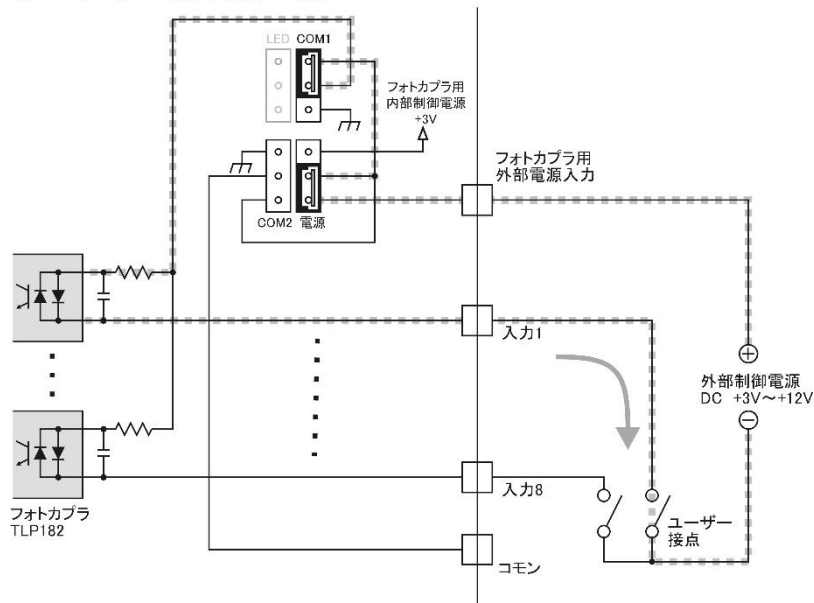
◆内部制御電源、+3V コモンとする場合



◆外部制御電源、-コモンとする場合

注意！：外部電源を使用する場合は、必ず DC+3V～+12V の電圧範囲として下さい。

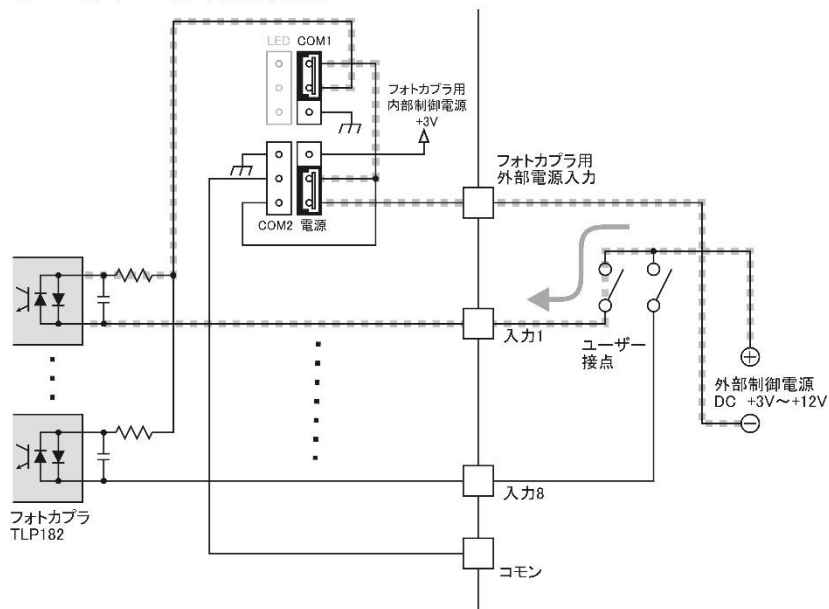
※COM2のジャンパーは必ず取り外して下さい



◆外部制御電源、+コモンとする場合

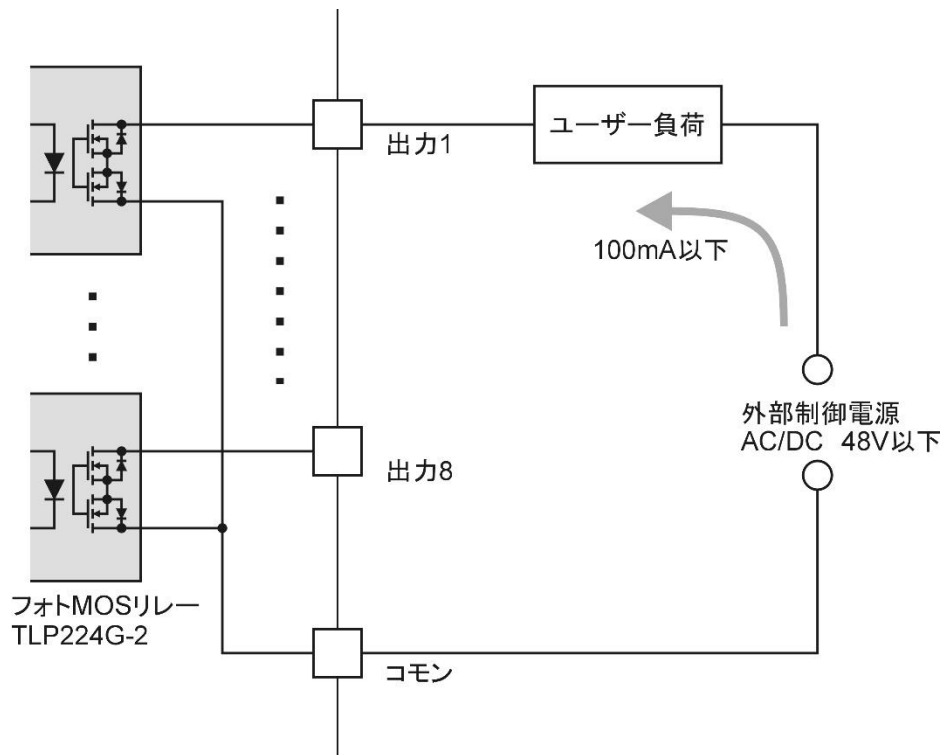
注意！：外部電源を使用する場合は、必ず DC+3V～+12V の電圧範囲として下さい。

※COM2のジャンパーは必ず取り外して下さい



■1.5.2 8 接点出力ボード

8 接点出力ボードは東芝製フォト MOS リレー TLP224G-2 を使用しています。制御電圧は 48V 以下で ON 電流は 100mA 以下として下さい。TLP224G-2 の ON 抵抗は約 35Ω です。



第2章 仕様及び図面

2.1 主な仕様

■2.1.1 8 接点入力ボード仕様

適用機種: MU3-IN8-1216

1、一般仕様

温度条件: +25°C±5°C、標準値

項目	MU3-IN8-1216
入力接点数	8ビット
インターフェース	フォトカプラ
入出力ボード間応答時間	90ms
使用温度※1	-15~+60°C
使用湿度	80%RH 以下 (結露無き事)
保存温度	-25°C~+70°C
保存湿度	80%RH 以下 (結露無き事)
動作電源電圧	4.0V 以上~24.0V 以下
接点入力電圧	3.0V 以上~12.0V 以下
消費電流※2	送信: 82mA 受信: 71mA
外形寸法※3	53mm × 90mm × 14mm (W × D × H)
本体重量	62g

※1: 温度条件によって到達距離は変動します

※2: 電源電圧 4.0v 時、全入力 ON 時

※3: アンテナ含まず。H は取付面からの高さ

2、無線部仕様

温度条件: +25°C±5°C、標準値

項目	MU1-IN8-1216
使用周波数チャンネル選択方式	自動: 4 グループから 1 つ選択 固定: 19ch から 1 つ選択
チャンネル数	19ch (ch 間隔 25kHz)
周波数範囲	1216.0375MHz~1216.4875MHz
技術基準	ARIB 標準規格 STD-T67
通信方式	単信又は単向
空中線電力※1	10mW +20% -50%以内
無線間通信速度	9600bps
アンテナ※2	弊社指定専用アンテナに限る

※1: +5°C~+35°C コンタクト(50Ω)

※2: 弊社が指定する専用アンテナに限ります。専用アンテナ以外は電波法違反となります。

■2.1.2 8 接点出力ボード仕様

適用機種: MU3-OUT8-1216

1、一般仕様

温度条件: +25°C±5°C、標準値

項目	MU1-OUT8-1216
出力接点数	8ビット
インターフェース※1	フォト MOS リレー
入出力間応答時間	90ms 以内
使用温度※2	-15~+60°C
使用湿度	80%RH 以下(結露無き事)
保存温度	-25°C~+70°C
保存湿度	80%RH 以下(結露無き事)
動作電源電圧	4.0V 以上~24.0V 以下
消費電流※3	送信:66mA 受信:111mA※5
外形寸法※4	53mm×90mm×14mm(W×D×H)
本体重量	62g

※1: 48V,100mA(AC/DC)

※2: 温度条件によって到達距離は変動します

※3: 電源電圧 4.0v 時

※4: アンテナ含まず。H は取り付け面からの高さ。

※5: フォト MOS 全駆動時

2、無線部仕様

温度条件: +25°C±5°C、標準値

項目	MU1-OUT8-1216
使用周波数チャンネル選択方式	自動:4グループから1つ選択 固定:19ch から1つ選択
チャンネル数	19ch(ch 間隔 25kHz)
周波数範囲	1216.0375MHz~1216.4875MHz
技術基準	ARIB 標準規格 STD-T67
通信方式	単信又は単向
空中線電力※1	10mW +20% -50%以内
無線間通信速度	9600bps
アンテナ※2	弊社指定専用アンテナに限る

※1: +5°C~+35°C コンタクト(50Ω)

※2: 弊社が指定する専用アンテナに限ります。専用アンテナ以外は電波法違反となります。

2.2 チャンネルとチャンネルグループ

使用周波数チャンネル選択方式には、自動周波数チャンネル選択方式と固定周波数チャンネル方式があります。

1、自動周波数チャンネル選択方式：グループ内チャンネルの中から自動的に通信するチャンネルを選択します。自動周波数チャンネル選択方式は、周辺の電波状況を測定し、他者電波がなければ選択したチャンネルで送信が行われます。この動作はINボードの電源を入れた時点でのみ行われます。一旦チャンネルが決定されると電源OFFまでそのチャンネルで送信が行われます。

2、固定周波数チャンネル方式：全チャンネルの内、1チャンネルを固定的に使用します。

■2.2.1 8 接点ボード 1216MHz 帯

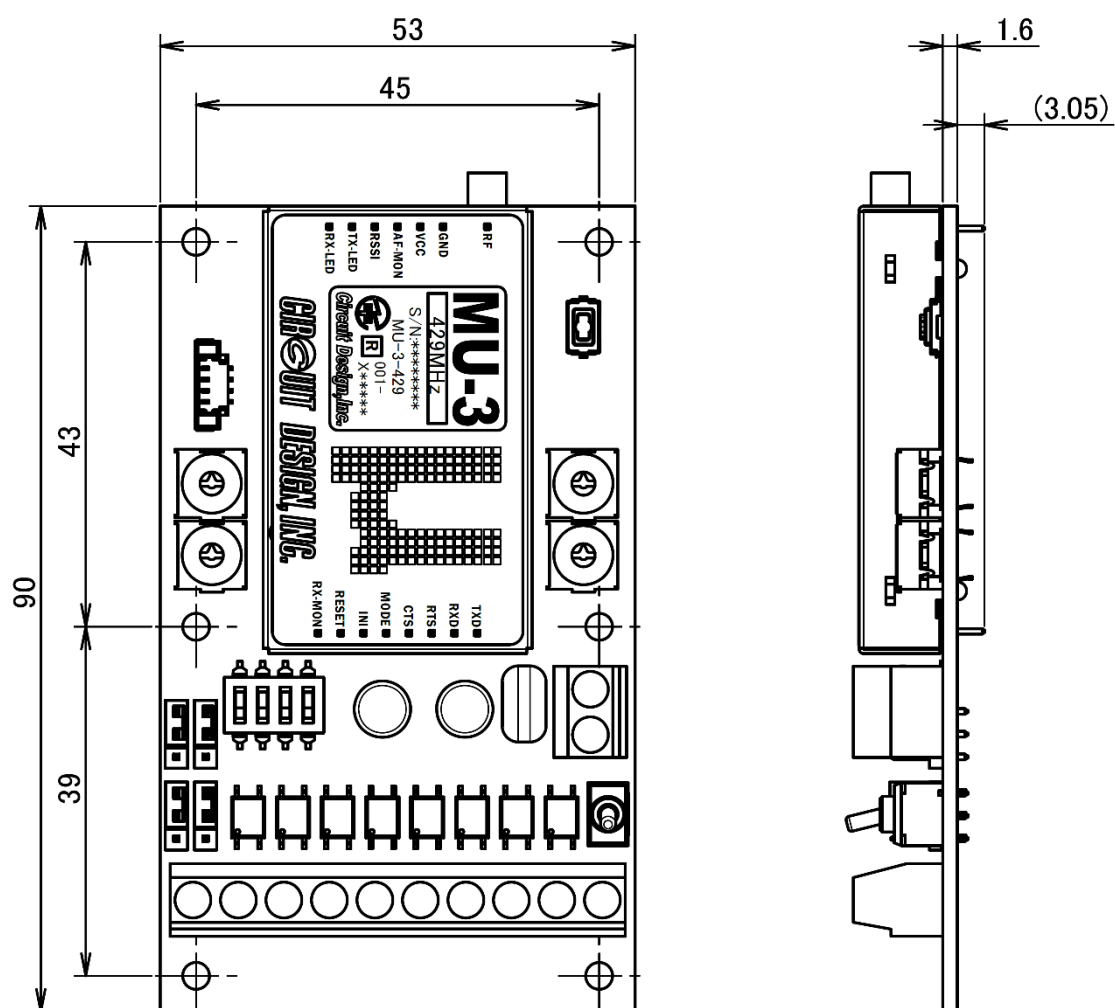
MU3-IN8-1216、MU3-OUT8-1216

1216MHz 帯チャンネルテーブル					
チャンネル Dec.(Hex)	周波数(MHz)	グループ ナンバー			
		1	2	3	4
2(02)	1216.0375	1			
3(03)	1216.0625		2		
4(04)	1216.0875			3	
5(05)	1216.1125				4
6(06)	1216.1375	1			
7(07)	1216.1625		2		
8(08)	1216.1875			3	
9(09)	1216.2125				4
10(0A)	1216.2375	1			
11(0B)	1216.2625		2		
12(0C)	1216.2875			3	
13(0D)	1216.3125				4
14(0E)	1216.3375	1			
15(0F)	1216.3625		2		
16(10)	1216.3875			3	
17(11)	1216.4125				4
18(12)	1216.4375	1			
19(13)	1216.4625		2		
20(14)	1216.4875			3	

2.3 外形寸法図

■2.3.1 8 接点入力ボード MU3-IN8-1216

※図中の MU-3 は 426MHz 仕様ですが、1216MHz 仕様でも外形に相違はありません。



■2.3.2 8 接点出力ボード MU3-OUT8-1216

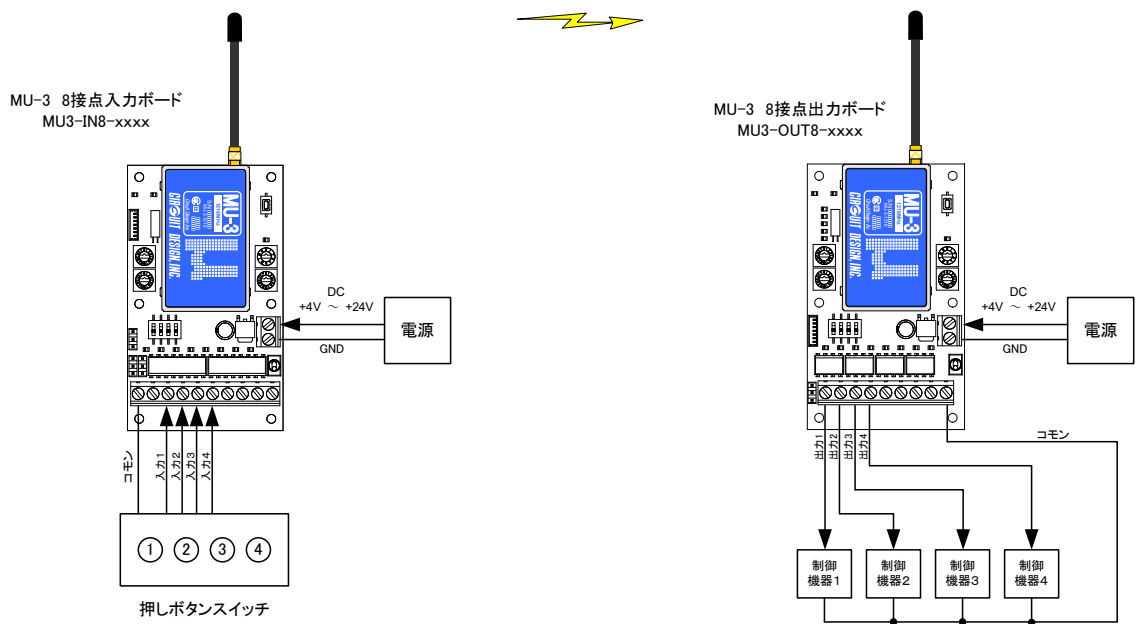
8 接点入力ボード MU3-IN8-1216 と同寸法

第3章 使い方

3.1 入力ボードと出力ボード間通信

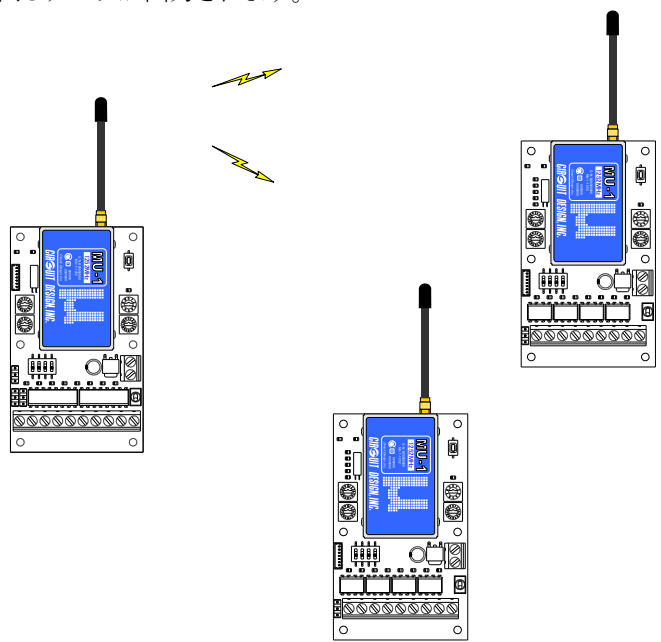
8 接点入力ボードと 8 接点出力ボードの通信においては、データはサイクリックに伝送(繰り返し伝送)されます。電波が 100ms 以上途切れた場合、出力ボードの接点はオープン状態になります。入力ボードと出力ボード間の応答時間は 90ms です。なお、電源投入後通常動作になるまで 120ms 掛かるので、頻繁な ON/OFF は避けて下さい。

◆1:1 通信



◆1:N 通信

全ての 8 接点出力ボードに同じデータが出力されます。



3.2 初期設定

8 接点ボードを動作させるには最初に初期設定を行う必要があります。
初期設定には、搭載している MU-3 のリンク ID の初期化と、8 接点ボード通信に必要な通信 ID の設定を行いません。

■3.2.1 8 接点ボード上 MU-3 の初期化

8 接点ボードの MU-3 のリンク ID は初期設定において以下のように初期化されます。

リンク ID	搭載 MU-1 の初期設定値	備考
UI: ユーザ ID	F00h	固定値
GI: グループ ID	00h	固定値
EI: 機器 ID	EI/DI スイッチの値	00h ~ FFh
DI: 目的局 ID	EI/DI スイッチの値	00h ~ FFh
周波数チャンネル	チャンネル設定スイッチの値	・1216MHz: 02h ~ 14h(2ch~20ch)

■3.2.2 通信 ID について

8 接点ボード通信システムに含まれる全てのボードは同じ通信 ID でなければリンクしません。通信 ID は 16 ビット長で、システム内で使用する 8 接点ボードに搭載した、何れかの MU-3 のシリアルナンバーを用います。通信 ID の設定は、採用するシリアルナンバーを無線で相手側に送信することで完了します。

- ◆入力ボードと出力ボード間通信の通信 ID は、初期化時に自動的に設定されます。
- ◆PC と 8 接点ボード間通信の通信 ID は、PC からユーザプログラムで設定します。

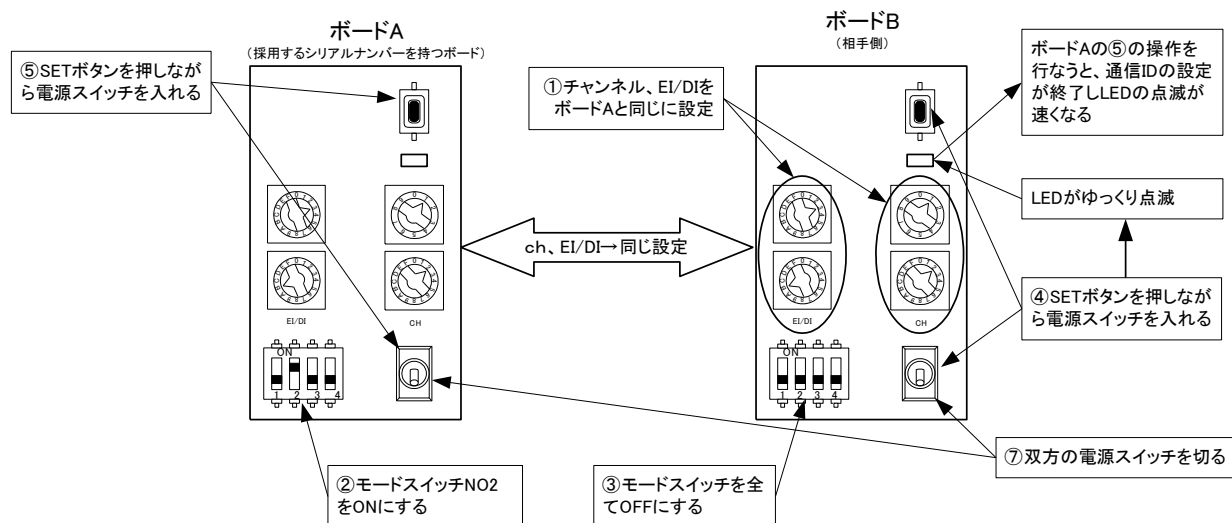
通信 ID の設定例

MU-3 のシリアルナンバーが 00065000 の時、これを 16 進数値に変換した 'FDE8' を通信 ID とし、PC からデータ送信コマンドで送信します。

送信コマンド: @DT03 0FFDE8

※'0F' は通信 ID 設定のための機能コード

■3.2.3 入力ボードと出力ボード間通信時の初期化



手順

- ①双方のボードのロータリースイッチで、使用する周波数チャンネルとEI/DIを同じに設定して下さい。
- ②通信IDとして採用するシリアルナンバーの接点ボードで、モードスイッチのNO2だけをオンにして下さい。
- ③相手側のボードのモードスイッチを全てOFFにして下さい。
- ④相手側のボードの'SET'ボタンを押しながら電源スイッチを投入して下さい。パワーLEDがゆっくり点滅し、初期設定待機状態になります。
- ⑤シリアルナンバー元のボードの'SET'ボタンを押しながら電源スイッチを投入して下さい。
- ⑥相手側のパワーLEDの点滅が速くなり、通信IDの設定が完了したことを示します。
- ⑦モードスイッチを全てOFFして下さい。
- ⑧動作させるために双方の電源スイッチを一旦切ってください。
- ⑨運用のために、動作モード(3.3章参照)を設定してから電源を入れて下さい。

■3.2.4 8接点ボードとPC間通信時の初期化

PCにはMU-3搭載キット(例えばMU3-RS2など)を接続して下さい。通信IDの設定には8接点ボード用評価プログラムを使用するか、設定プログラムを作成して下さい。

注意！通信IDはバイナリーデータなので通常の通信プログラムからは送信できません。

8接点ボード評価プログラムから設定する手順

- ①8接点ボードのロータリースイッチで、使用する周波数チャンネルとEI/DIを設定して下さい。
- ②8接点ボードのモードスイッチを全てOFFにして下さい。
- ③8接点ボードの'SET'ボタンを押しながら電源スイッチを投入して下さい。パワーLEDがゆっくり点滅し、初期設定待機状態になります。
- ④PCに接続したMU-3搭載キット(例えばMU3-RS2など)に対して、8接点ボード用評価プログラムでシリアルナンバーを入力してから通信ID設定ボタンを押して下さい。
ただし、通信IDを設定する前に、ユーザIDをF000hに設定する必要があります。

方法:@UIF000,3B27

EEPROMに固定する場合:@UIF000,3B27/W

- ⑤8接点ボードのパワーLEDの点滅が速くなり、通信IDの設定が完了したことを示します。
- ⑥8接点ボードのボードの電源スイッチを切ってください。
- ⑦運用のために、動作モードを設定してから電源を入れて下さい。

※複数のボードを初期設定待機状態にすることで、一度に通信IDを設定することができます。

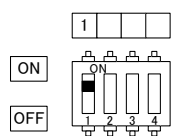
※設定プログラムの作成に当たっては、通信フォーマットを参考にして、シリアルナンバーを含む機能コードをデータ送信コマンドで送信して下さい。

3.3 動作モード

■3.3.1 使用周波数選択方法

モードスイッチの No1 は、8 接点ボード使用時の周波数チャンネルの選択方式を決定します。使用する周波数チャンネルの選択方式には、周波数チャンネル自動選択方式と周波数チャンネル固定方式があります。周波数チャンネル固定方式の場合は、周波数チャンネル番号を上位、下位ロータリースイッチで直接指定して下さい。値は HEX 値 (16 進数) です。周波数チャンネル自動選択方式の場合は、使用する周波数チャンネルグループ番号を上位ロータリースイッチで指定します。

- ・入力ボードモードスイッチ No1 の設定
- ・出力ボードモードスイッチ No1 の設定



モードスイッチ

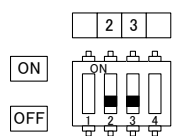
No1	ON	周波数チャンネル自動選択方式
	OFF	周波数チャンネル固定方式

周波数チャンネル自動選択方式の動作

入力ボードの電源を入れるとキャリアセンスを行い、使用できるチャンネルを選択し固定します。この状態は電源が OFF されるまで続きます。出力ボードは電源を入れると、グループ内でチャンネルスキャンを行い、リンクが成立したら、入力ボードからのデータを出力します。リンクが 1 秒以上途切れた場合はグループ内でチャンネルを再スキャンします。

■3.3.2 入力ボードと出力ボード間通信

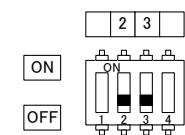
入力ボードを連続送信モード、出力ボードを受信待機モードにすることによって、ボード間通信が成立します。



モードスイッチ

◆入力ボードモードスイッチ設定

		No3	
		ON	OFF
No2	ON	×	×
	OFF	×	連続送信モード



モードスイッチ

◆出力ボードモードスイッチ設定

		No3	
		ON	OFF
No2	ON	×	×
	OFF	×	受信待機モード

■3.3.3 PC と入力ボード間通信

PC と入力ボード間の通信には、下記の 2 通りがあります。

1、ポーリング通信: PC からのデータ送信要求信号が届いた時だけデータを送信します。通常は受信待機状態です。中継局を 10 局まで設置可能です。中継局は MU-3-1216 モデムの初期設定を行い、電源を供給するだけで機能します。

2、連続送信モード: 電源を入れると同時にデータをサイクリックに送り始めます。中継機能は使用できません。

◆入力ボードモードスイッチ設定(ポーリング通信モード)



		No3	
		ON	OFF
No2	ON	ポーリング通信 受信待機モード	×
	OFF	×	×

◆入力ボードモードスイッチ設定(連続送信モード)



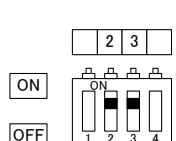
		No3	
		ON	OFF
No2	ON	×	×
	OFF	×	連続送信モード

■3.3.4 PC と出力ボード間通信

PC との通信において出力ボードは常に受信待機モードです。ただし搭載している MU-3 は双方向のトランシーバなので、8 接点出力ボード周辺の電波状況を PC から取得することができます。

また、中継局を 10 局まで設置可能です。中継局は MU-1N-1216 モデムの初期設定を行い、電源を供給するだけで機能します。

◆出力ボードモードスイッチ設定



		No3	
		ON	OFF
No2	ON	受信待機モード	×
	OFF	×	×

3.4 ボード周辺の電波状況の取得

8 接点ボードに搭載している MU-3 は双方向通信が可能なトランシーバです。MU-3 には周辺の電波状況を取得するコマンド(@CR、@CA)や、パケットの到達率を計算するための便利なコマンド(@CP)があります。詳細は MU-3 マニュアルをご覧ください。

本プログラムのエアーモニタを使用すると、8 接点ボード周辺の RSSI を取得することができます。

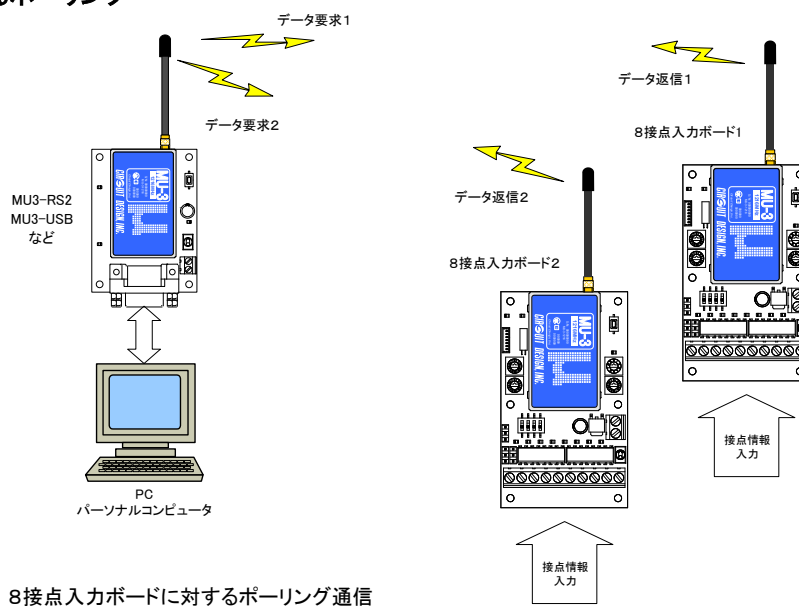
※MU-1 評価プログラムを使用すると、パケットの到達率を調べることもできます。

第4章 PC・CPU からコントロール

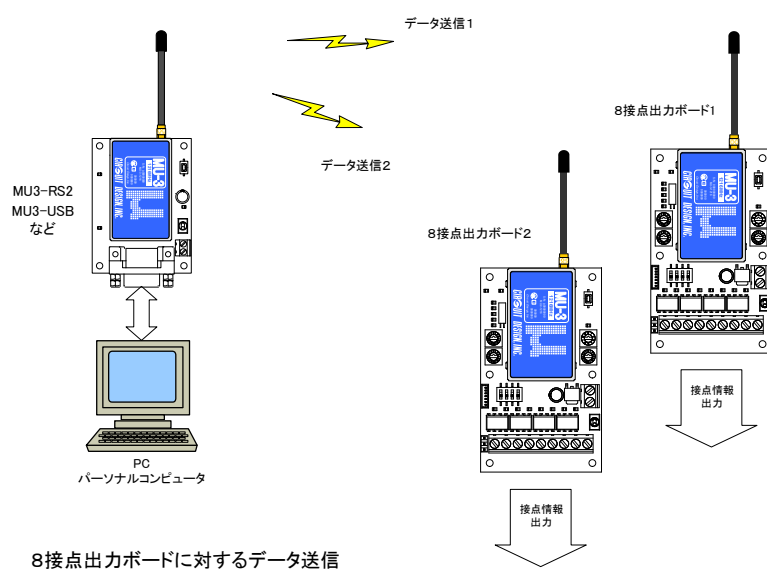
PC や CPU に接続した MU-3 から 8 接点ボードをコントロールすることができます。8 接点入力ボードからは 1 バイトデータを引き取ることができ、8 接点出力ボードへは 1 バイトデータを送ることができます。8 接点出力ボードは指定した時間、データをラッチ(保持)します。また、8 接点出力ボード、8 接点入力ボードは中継局を介して制御することもできます。中継局は初期設定を行った後は、電源を供給するだけで動作します。

4.1 システム図

◆入力ボードに対するポーリング



◆出力ボードのコントロール



4.2 通信フォーマット

■4.2.1 概要

8 接点ボードと PC に接続した MU-3 との間で通信を行なうときは、以下の通信フォーマットで PC 側プログラムを作成して下さい。

PC 側 MU-3 は 8 接点ボードに合わせ周波数チャンネルやリンク ID を設定して下さい。通信 ID (シリアルナンバー) は機能コードと一緒に送る必要があります。

機能コードは1バイトの HEX データです。

■4.2.2 8 接点ボードに対する PC 側ボードの設定

	PC の設定	備考
UI: ユーザ ID	F000h	@UI F000,3B27 或は@UI F000,3B27/W※1
GI: グループ ID	00h	8 接点ボードは固定値' 00'h
EI: 機器 ID	8 接点ボードに合わせる	00h ~ FFh
DI: 目的局 ID	8 接点ボードに合わせる	00h ~ FFh
周波数チャンネル	8 接点ボードに合わせる	・1216MHz: 02h ~ 14h(2ch~20ch)

※1 ボードに設定値を記憶する場合。他の ID、チャンネルも記憶できます。

■4.2.3 8 接点出力ボードへの PC 側送信フォーマット

1 バイト目	2 バイト目	3 バイト目	4 バイト目	5 バイト目
機能コード 02	シリアルコード (16 ビット長)		データラッチ時間 00h ~ FFh	データ 00h ~ FFh
	上位 8 ビット	下位 8 ビット		

データラッチ時間

00h: 8 接点出力ボードはデータラッチを解除する

01h~FFh: 8 接点出力ボードは「数値×100ms」の時間だけデータラッチし、時間経過後にラッチ解除する。(最小 100ms ~ 最大 25.5s)。ラッチ状態を連続するためにはラッチ時間以内に再度データを送って下さい。

例: データ' 55'h を出力ボードに送る。シリアルナンバー: 65534(FFFEh)、データラッチ時間: 1 秒の時
発行コマンド @DT05 02FFFE0A55 実際に送るデータ: 40,44,54,30,35,02,FF,FE,0A,55,D,0A

■4.2.4 ポーリング通信時フォーマット

8 接点入力ボードに対してポーリング通信(データがあればデータを引き取る)を行なうには、以下のフォーマットでデータ送信コマンドを発行して下さい。

8 接点入力ボードへの PC 側送信フォーマット

1 バイト目	2 バイト目	3 バイト目
機能コード 03	シリアルコード (16 ビット長)	
	上位 8 ビット	下位 8 ビット

例: シリアルナンバー: 65534(FFFEh)の時

発行コマンド @DT03 03FFFE 実際に送るデータ: 40,44,54,30,33,03,FF,FE,0D,0A

8 接点入力ボードからの返信フォーマット

1 バイト目	2 バイト目	3 バイト目	4 バイト目
機能コード 01	シリアルコード (16 ビット長)		データ 00h ~ FFh
	上位 8 ビット	下位 8 ビット	

■4.2.5 8 接点ボードの通信 ID 設定

8 接点ボードの通信 ID を設定する時は以下のフォーマットでデータ伝送コマンドを発行して下さい。
複数台の 8 接点ボードを通信 ID 設定待機状態にした後、このデータを送ることで一度に設定することもできます。
ボードを待機状態にするには、ボードのモードスイッチを全て OFF にしてから、SET ボタンを押しながら電源スイッチを入れて下さい。

1 バイト目	2 バイト目	3 バイト目
機能コード	シリアルナンバー(16 ビット長)	
0F	上位 8 ビット	下位 8 ビット

例: シリアルナンバー: 65534(FFFEh)の時
発行コマンド @DT03 0FFFFE 実際を送るデータ: 40,44,54,30,33,0F,FF,FE,0D,0A

■4.2.6 8 接点入力ボードの送信フォーマット(8 接点出力ボードとの 1:1 通信時)

8 接点入力ボードと 8 接点出力ボードとの間の通信はサイクリック通信が行なわれていますが、8 接点入力ボードから送信されるパケットのフォーマットは以下の通りです。

1 バイト目	2 バイト目	3 バイト目	4 バイト目
機能コード	シリアルコード(16 ビット長)		データ
01	上位 8 ビット	下位 8 ビット	00h ~ FFh

4.3 中継局を使用した 8 接点ボードの制御

8 接点ボードは PC や CPU などから中継局を介して制御することもできます。
中継局は初期設定を行った後は、電源を供給するだけで動作します。中継局は MU-3-1216 単体か、MU-3-1216 を搭載した RS232C ボード: MU3-RS2-1216 を使用することができます。MU3-RS2-1216 は D-Sub コネクタの 1 番ピン(+電源)と 9 番ピン(GND)が電源となっており、232C ケーブルで電源を供給できるので便利です。

◆8 接点入力、8 接点出力ボードの設定

- ・ユーザ ID を F000h に設定してください。
- ・機能コード 0F で通信 ID を設定してください。

◆中継局の設定

- ・ユーザ ID を F000h に設定してください。
 - ・機器 ID を設定してください。
- ※EEPROM に設定を固定する必要があります。

◆送信側(PC など)のデータ

- ・ユーザ ID を F000h に設定してください。
 - ・中継ルート情報を設定してください。
 - ・出力ボード通信 →機能コード 02 の通信フォーマットでデータを送信してください。
 - ・入力ボード通信 →機能コード 03 の通信フォーマットでデータを送信してください。
- 入力ボードの接点情報が、中継局を介して、4.2.6“入力ボードの送信フォーマット”で返信されます。

出力ボードへの送信例

条件

送信側 機器 ID:01、中継局機器 ID:03、出力ボード機器 ID:05、ユーザ ID は全て F000h
データ:55h、通信 ID:65534(FFFE)、データラッチ時間:1 秒

送信データ

@DT05...../R 03,05CrLf

実際を送るデータ: 40,44,54,30,35,02,FF,FE,0A,55,2F,72,30,33,2C,30,35,0D,0A

ご連絡・お問合せ先

各種お問い合わせは、弊社営業部まで下記のいずれかの方法でご連絡ください。
また弊社ホームページ (<http://www.circuitdesign.jp/>) には技術情報ならびに新しい情報、Q&A などが掲載されていますのでご利用ください。

メール

販売に関するお問い合わせ: sales@circuitdesign.jp

技術的なお問い合わせ: technical@circuitdesign.jp

宛先: 営業部

電話

電話番号: 0263-82-1024

担当部署: 営業部

受付時間: 9:00 ~ 17:30 (平日)

FAX

FAX 番号: 0263-82-1016

宛先: (株)サーキットデザイン 営業部

郵便

郵便番号: 399-8303

住所: 長野県安曇野市穂高 7557-1

宛先: (株)サーキットデザイン 営業部

本マニュアルの記載内容については万全を期しておりますが、万一ご不明な点、不備な点がございましたら、弊社営業部までご連絡ください。



通知

◇本マニュアルの内容は予告無く変更する場合があります。
◇本マニュアルの著作権は、株式会社サーキットデザインが所有します。



禁止

◇本マニュアルの内容の全てまたは一部を無断で複製・コピー・転載することを禁止します。

改版履歴

Version	Date	Description	Remark
1.0	Feb. 2024	初版	